

へりくだる霊と神の憐れみ

イザヤ 57 : 14 - 21



司祭 ヨハネ 井田 泉

2018年7月22日

奈良基督教会にて

最近の日本の国のあり方を見ていると、失望と怒りが高じてきます。そのひとつは「カジノ法」の成立です。巨大なギャンブル施設が造られることによって、一部の人が大もうけをし、多くの人不幸に陥るでしょう。そして今でもすでに危うい日本人の正義や公平の感覚がますます麻痺して、精神的退廃が進むでしょう。

昔、わたしが神学校を卒業して下鴨キリスト教会に勤務していたとき、月に1回聖餐式をしに来てくださっていた退職司祭のK先生は、説教のたびに社会の現実を、また教会の現実を慨嘆しておられました。悲憤慷慨という言葉そのものでした。わたしもそれにならいたい思いがします。

ところで主イエスはわたしたちに対して「**あなたがたは地の塩である**」(マタイ 5:13)と言われました。社会が間違った方向に傾きつつある今こそ、わたしたちは聖書をとおして神が何を語っておられるか、何を求めておられるかに、耳を澄ましたいと願います。それを重ね深めるならば、必ずわたしたちは真実を見極める目と、良いことを行う力を与えられるでしょう。

今日ご一緒に耳を傾けたいのは、最初に朗読された旧約聖書・イザヤ書第 57 章 14 節以下です。これは、イエスさまより 500 年くらい前の預言者を通して語られた主の言葉です。ここには、人間の傲慢と神への背き、どうしようもない頑なさが描かれるとともに、それに対する神の深い思いと決意が現されています。

「主は言われる。

盛り上げよ、土を盛り上げて道を備えよ。

わたしの民の道からつまずきとなる物を除け。」 57:14

この「道」とは、神さまがわたしたちに出会おうとして来られる道、またわたしたちが神さまに向かってまっすぐに歩いて行く道です。その何より大切な道に「つまずきとなる物」がある。

「わたしの民の道からつまずきとなる物を除け。」

この大切な道、神と人が出会う道に「つまずきとなる物」がある、と神ははっきり見ておられます。これは後からすぐに出て来ますが、わたしたちの貪欲、神への背きと、それに気づこうともしない頑なさです。

しかし、神はそれを問う前に、現に目の前にいる滅びに瀕した危うい人間を救おうとして、こう言われます。

「高く、あがめられて、永遠にいまし

その名を聖と唱えられる方がこう言われる。

わたしは、高く、聖なる所に住み

打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり

へりくだる霊の人に命を得させ

打ち砕かれた心の人に命を得させる。」 57:15

神は人間と隔絶した、いと高き所に住まわれる聖なる方です。

神はその高き所、天から人間を見つめ、見守り、場合によっては見放してもよかったです。しかし神はそうはされない。そうはできない。なぜならご自分が造ったもの、人間を愛しておられるからです。それで「高く、聖なる所に住む」と言われる方が、こう言われます。

「(わたしは) 打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり」

高みにおられるはずの神が、打ち砕かれた、絶望状態の人のところに来られ、へりくだる霊の人と共にいる、と言われる。神は人を惜しまれる。どのような人であっても、あなたは失われてはならない、と言われるのです。神の愛が沸き立っています。

「(わたしは) へりくだる霊の人に命を得させ

打ち砕かれた心の人に命を得させる。」

「へりくだる霊の人」というのは、何もすっかり謙遜になった人とか、回心して神の前に素直になった人とは限りません。むしろ「打ち砕かれた心の人」と同じで、自分で自分を救えないことを知った人、もがいてもどうすることもできない状態になった人です。その人に神は「命を得させる」と言われます。

「わたしは、とこしえに責めるものではない。

永遠に怒りを燃やすものでもない。

霊がわたしの前で弱り果てることがないように

わたしの造った命ある者が。」57:16

神の憐れみが溢れています。

ここからあらためて事実の指摘がなされます。

「貪欲な彼の罪をわたしは怒り

彼を打ち、怒って姿を隠した。

彼は背き続け、心のままに歩んだ。」 57:17

これが人の現実であり、神が経験されたことです。神は怒り、人を打ち、そしてご自分の姿を隠された。神が姿を隠される。人が神を見失う。これがどんなに恐ろしいことであるか、経験された方はご存じかもしれません。

にもかかわらず、人は神に背き続けて、自分の心のままに歩んだ。これは最悪です。救いようがない事態です。しかしその結果、彼がどうしようもない悲慘に陥り、癒しがたく病み、身動きもできなくなったその姿、現実を――

「わたしは彼の道を見た。」 57:18

神はご覧になりました。彼の悲慘、彼の病、彼の絶望を神はご覧になった。そのとき、人を惜しまれる神の憐れみが溢れ出てしまうのです。

「わたしは彼の道を見た。

わたしは彼をいやし、休ませ

慰めをもって彼を回復させよう。」 57:18

彼が悔い改めたからではなく、神の前に素直になったからではなく、ただこの現実を放置できない神の憐れみが溢れて、神は「わたしは彼をいやし、休ませ、慰めをもって彼を回復させよう」と決心し、そのように宣言されました。

この神の憐れみの決意と行動の中に、500年後のイエス・キリストの姿が現れています。

「民のうちの嘆く人々のために

わたしは唇の實りを創造し、与えよう。」57:18-19

神が救いようのない人を救われるその最初は何か。「唇の實りを創造し、与え」ることです。その人の唇に、それまではなかった思いと言葉を造ってお与えになる。どんな思いと言葉かと言えば、神への感謝と賛美です。祈りです。

これまでその人は、神に対してまっすぐに声を上げることができなかった。人に対してもその唇からは苦い物を吐き続けてきた。その人の唇はよき実りを結ばず、自分と人を損なってきた。しかし今、神が造って与えられる。その人に、それまでその人にはなかった良き思いと良き言葉を与えられる。この人は神に赦され、深い所から癒されて、新しく造り変えられます。その最初が、唇が清められ、祝福されることです。

これまで 2500 年前の預言者が、その預言者をとおして神が見つめ、また語っておられる人の悲惨とその救いをわたしたちは聞いてきました。しかしこれはわたしたちのことでもあるのではないのでしょうか。

神がご覧になるわたしの道、わたしの現実はどのようなものだったか。わたしの唇からはどのような思いと言葉が出ていたのでしょうか。

しかしこれまでのわたしたちがどうであれ、神の憐れみは、わたしたちの打ち砕かれた現実、行き詰まった現実、救いがたい現実を前にして沸騰する。神の憐れみはその所に注がれて、わたしたちを癒そうとされるのです。

祈ります。

神さま、教えてください。あなたがわたしたちの思いを超えて憐れみ深いことを。わたしたちの悲しむべき現実を知らせてください。わたしたちにへりくだる霊を与えてください。そして、わたしたちの唇を清めて、新しく祈りと良き言葉を与えてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン